

交遊抄

「ナミねえ、置かれた状況を冷静に受け止めて、心配かけてごめんね」「でも、さきに改めてすごい人だも、麦飯も結構いけるの」。私は娘に重度の障害があったことから、神戸を拠点に「チャレンジド(障害者)を納税者にしよう」と就労支援の活動をしてきた。今はNHKの経営委員も務めるが、ここ

大阪拘置所の面会室。ドラマのような透明の仕切り向こうに、彼女は普段と変わらない優しいまなざしでたずんでいた。その表情に、気負っていた私の方が冷静にさせられたのを覚えている。

彼女とは内閣府政策統括官の村木厚子さん。冤罪で逮捕・起訴され、無罪を勝ち取った、

“常識”と闘う同志

ナミ 中 竹

厚子さんも子育てや「霞が関」の様々な壁に直面しながら、女性や障害者の生きやすい社会づくりに奔走してきた。同じ「おかん」として、同志として今後も旧来の社会の“常識”と闘っていきたい。(たけなか・なみ

は15年以上前。厚子さんが労働省(現厚生労働省)職員でまだ課長になる前だった。年下だが、私にとって尊敬する友人だ。事件のさなかには幾度も厚子さんを訪ねた。自分の

社会福祉法人プロップ・ステーション理事長)